

シンポジウム 学術情報流通の改革を目指して ～電子ジャーナルが読めなくなる 2～

本年5月にシンポジウム「学術情報流通の改革を目指して～電子ジャーナルが読めなくなる！？」を開催し、大学図書館にとどまらず学術情報流通のすべての関係者に対して、電子ジャーナルをめぐる危機的な状況を報告するとともに、出版者、大学図書館、大学、研究者等関係者のすべてがその解決に向けて取り組むべきことを訴えました。

今回のシンポジウムでは、その後の関係者の取組みと現況について報告し、今後の進め方を討議します。

日 時：平成20年12月10日（水）13:30～17:00

場 所：東京大学医学部鉄門記念講堂

（東京大学本郷キャンパス、医学部教育研究棟14階）

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_09_j.html

主 催：国立大学図書館協会

プログラム

1 開会挨拶

西郷和彦（学術情報流通改革検討WG主査、国立大学図書館協会長、
東京大学附属図書館長）

2 国立大学図書館協会のこの6ヶ月間の取組み（報告）

伊藤義人（合同電子ジャーナル・タスクフォース主査、
名古屋大学附属図書館長）

3 今後の対応について（討議）

司会：伊藤義人

(1) Big Deal からの撤退戦略：OhioLink、Max Planck Society のケース（ICOLC Europe
2008より） 報告者：井上修（名古屋大学附属図書館）

(2) 電子ジャーナル経費の分析：Elsevier 社を中心に

報告者：植松貞夫（筑波大学附属図書館）

(3) ScienceDirect 購読シミュレーション：静岡大学の場合

報告者：加藤憲二（静岡大学附属図書館）

(4) 討議